

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4570102840		
法人名	有限会社あおき		
事業所名	グループホームあおき園		
所在地	宮崎県宮崎市大島町南窪807番地 (電話) 0985-61-5558		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】(平成20年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 7年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤3人, 非常勤5人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,950 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (122,850円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月5日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	2	要介護2	4
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 81.3歳	最低 75歳	最高 86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮崎生協病院、野崎東病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は地元出身で、学校のPTA会長や青年会議所役員、民生児童委員を歴任され地域との連携や地域への貢献に何が出来るかを考えた結果、4年前に当園を、今年は近くに2番館を開設されている。運営者自身も管理者研修やその他の専門研修に積極的に参加され、職員の人材育成に努められている。ホームは商店街やバス道路から一步入った所であるが、閑静で一般住宅風の設計は環境に融和した落ち着きが内外に漂っている。隣接の畑は運営者が家庭菜園として多種類栽培されたものを、利用者が自由に食材として収穫できる手だてがなされている。また、一昨年から自治会に加入されたので、地域密着型グループホームの有り様が一層期待できる。その一方で、現在、新規職員が多いこともあり、一丸となってグループホームを構築するところまで至っていない。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題であった苦情などの意見箱はまだ設置されていないが、トイレの照明や誘導灯に関する要望には直ちに改善されている。重度化や終末期ケアを職員の入れ替わりや介護経験者を考慮すると、現段階では不安があるため、家族との話し合いは持たれていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	職員会議で自己評価の目的を指導し、職員と共に自己評価表の作成を目指したが、6か月未満の職員、グループホーム未経験者が多く、十分な理解ができていない。今後の職員研修資料としてOJT(職場の実務を通じて行う従業員の教育訓練)に活用していく計画である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3か月ごとに開催され、災害時の対応や自治会活動への受け入れなどについて、委員から建設的な意見が出され実施されている。委員の構成に、地域包括支援センター、行政、地域の消防団、民生委員等を加えると、ホームの運営や地域における生活支援に対し、一層幅が出てくるものと思われる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情処理簿に記載する程の苦情は寄せられていないとのことだが、直接出された意見や要望に対しては可能な限り早急に解決されている。職員の入れ替わり対しては、家族の来訪時に意見を聞くことがあったが、2番館開設に伴う異動や採用・離職が相次ぎ、全家族に報告するまでに至らなかった。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	⑥	地区の祭りに招待されたり、地域内の他のグループホームとの交流会に参加するなど、積極的に地域との連携を図ろうとする姿勢がうかがえた。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者にとってグループホームは安心安楽な居場所であり、地域とのつながりの中で、その人が持つ五感を生かした暮らしが続けられ、心身の健康が持続できるよう支援することを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し実践に向けて行動するために、4項目の具体的でわかりやすい言葉に表現され取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の夏祭りや地域の他のグループホーム行事に参加している。地区の人からもらった花苗をホーム玄関前の庭に植えて開花を楽しんでいる。グループホーム便りを再開して、地区への回覧板交流ができるよう検討されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を生かした改善に努めている。新入職員が多く、共に自己評価表の作成を目指したが、まだ十分理解されていないので、職員会議や研修で評価の目的や意義が理解できるよう話し合われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域及び家族の代表が推進委員となり、3か月ごとに開催されている。地域の行事や防災、災害対策の意見が利用者のサービスやQOL（生活の質）の向上に生かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宮崎市介護相談員派遣事業により、月1回の訪問を受けているが、その他の職員との連携が少ない。	○	市には多くの専門職がおり、例えば、栄養士を依頼すれば献立や糖尿食指導等が受けられる体制にあるので、連携を取り合い利用者のサービスの質の向上に努めていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームが家族に対して、請求書や日々の暮らしぶりや写真など、また、看護師の採用により健康状態報告書や往診記録などを定期的に直接、あるいは郵送で報告されている。今回の職員の異動は来訪時に紹介の機会があったが、全員への報告はされていなかった。	○	家族が求める報告とホームが提供する報告にずれがないか、家族の来訪時や郵送時に家族のニーズを把握し、本人や家族とのコミュニケーションを構築していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口、担当者、外部の担当機関は明記されている。設備の改善要望（照明等）があったが迅速に対応されている。昨年の改善課題の意見箱は近々設置されることになっていることである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年1月以降に、2号館開設に伴い職員の異動や採用が頻繁に行なわれた。利用者に動揺は見られなかったが、家族からは来訪の度に職員が替わっていることへの意見が聞かれる事があった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修資料を作成して職員研修を行なっている。職場外研修にも積極的に参加できる仕組みが取られている。また、2番館と合同で看護師による蘇生法の勉強などをする取り組みも行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームに勤務する職員の交流や研さんを深めるため、近隣のグループホームの行事に参加したり、宮崎市グループホーム連絡協議会に参加されている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者については、本人や家族がホームを見学される。雰囲気になじみ納得されるように、職員だけでなく、利用者にも訪問者があることを説明し、動揺を与えないよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭菜園の収穫、調理や後片づけ、おやつ作りなど、利用者と職員が共に学び支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、利用者の思いや意向、希望を利用者や家族からくみ取することは重要である。新入職員の経験や感性により差がでてくるので、客観的に把握できる記録としてセンター方式の導入を検討中である。	○	先駆的事例、グループホーム間の情報収集や体験型研修への参加により、個人差がカバーされる標準化記録を検討していただきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を尊重し、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1か月ごとのモニタリングと、3か月ごとの見直しが定期的に行なわれている。変化が生じた時は、その都度、家族に相談しながら新たな計画を作成するよう努められている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は、利用者のニーズに応じて買い物支援や、受診介助が行なわれている。	○	多機能性を活かした支援には、本人や家族だけが対象ではなく、地域の高齢者や住民も対象とした支援も含まれる。認知症の理解や介護相談会等、地域のニーズを受け止め、ホームの専門性や機能を生かしていただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は、本人、家族と看護師が話し合って決定している。協力医による2週間ごとの往診も利用することもできる。歯科医院は隣接しており受療体制は恵まれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、重度化や終末期のケアをホームでは対応できないとの思いや不安で入院を選択する方向性であるが、このことについて、職員、家族、協力医との話し合いはされていない。	○	看取り支援は、その人らしい暮らしを続ける延長にあり、早期から繰り返し話し合いが必要である。どこで最後を誰と迎えるのか、重度化に対応できるホームであるのか、看取りを依頼したいのか、それぞれの思いを基に方針を共有していることが必要である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりの人格や尊厳を損なわないよう、声かけや対応が日常的に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	菜園や庭の手入れのために戸外ですごしたり、編み物、テレビ観賞など一人ひとりの希望に沿った支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材はまとめて購入した物を見て、職員が作った献立に基づき調理や片づけに利用者も参加している。若い人好みの献立であっても、軟食で高齢者に配慮した調理がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	見守りにより一人でゆっくり入浴できるように、半数ずつ隔日制を取り入れたが、希望があれば毎日入浴することもできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園収穫、花の手入れ、編み物、カラオケなどの楽しみごとを引き出し、過ごせるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園への散歩や買い物などに、職員の声かけにより日常的に外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	よく外出したり不穏状態にある利用者には気をつけている。玄関は日中鍵をかけず自由に出はいるできるようになっている。勤務者の交代時間帯は出はいるを感知するセンサーを使用し、夕食が終了した1人勤務の夜勤帯に鍵をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルが作成され、ホームだけの避難訓練は行なわれているが、消防団との連携は十分でないため、運営推進会議での協議で、次回会議に消防署職員による防災講話が予定されている。	○	失火対策、火災や地震時の避難方法や避難経路の確保、夜間を想定した避難訓練の実施、近隣者や地域の消防団との協働が必要であり、連携に取り組んでいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分量は記録されている。糖尿病のためカロリー制限の利用者は外注の配食を利用しているので、皆と同じ食事が食べたいとの訴えが時々ある。	○	看護師が採用されたので、主治医の指示や市保健所の栄養士の指導を受け、皆と同じ食事ができる楽しさを与えていただきたい。同様に、食事バランスや献立のアドバイスをを受け、更なる質の向上を目指していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ろうかに囲まれた坪庭や玄関前の庭には紅葉する木が植栽され、季節の移り変わりを感じさせている。利用者が食事やくつろぎに日常的に過ごすリビングは、大きなガラス戸からの日光がふんだんに取り込まれ、明るく暖かい生活空間が作り出されている。冬は床暖房により居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや好みの物を持ち込んだり、ベッドの位置を変えたり、畳に敷き替えることもでき、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。